

(英語版)

(アラビア語版)

令和三年十月

中国及びサウジの不正介入で見送りととなった今年の世銀ビジネス環境ランク



9月16日、世界銀行は毎年恒例の「Doing Business Report」(「ビジネス環境ランク」)を今年は見送ると発表、関係者を驚かせている。「ビジネス環境ランク」は世界の二百近い(2020年版の場合は190)国あるいは地域のビジネス環境をランク付けしたものであり、当該国・地域でビジネス活動を行う場合の難易度を知る目安になるとして世界で広く利用されている。毎年12月に発表され筆者は2008年以来ブログで紹介を続けてきた。しかし2021年版については昨年12月以降半年以上も発表が遅れていたため不審に思っていたところ、今回世界銀行から同年版の発表を見送る旨の発表があった。またこれに合わせ外部の法律事務所WILMERRHALLによる内部調査結果が公表された。

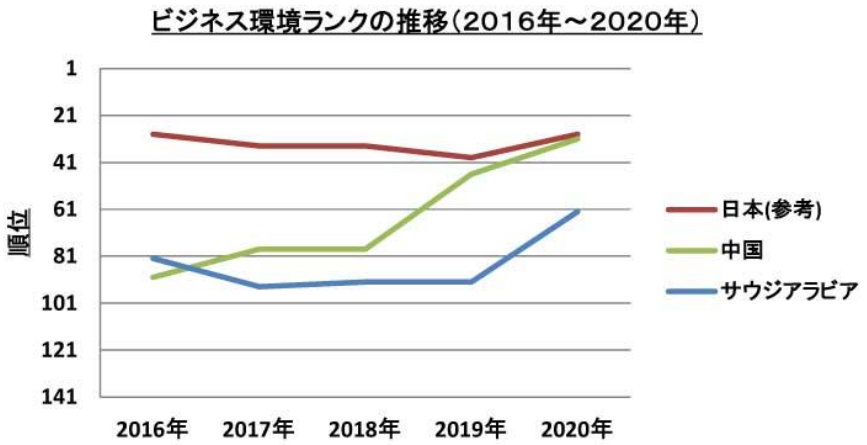
1 / 4

不正の概要

WILMERRHALLの世銀内部聞き取り調査によれば、2018年版の原案では前年よりランクが下がるとされていた中国が世銀上層部にランクの見直しを働きかけ、一部データを改ざんすることで前年と同様のランクを維持させたと言うもので、報告書では当時世銀の最高経営責任者であったゲオルギエワ現IMF専務理事が直接関与したと明言している。

また2020年版では12月の発行に先立つ同年9月の原案で、環境改善度が高い国としてヨルダンをトップ、サウジアラビアを二番目としたことに対してサウジアラビアが強い不満を表明、世銀トップの判断で順位を入れ替えたとされる。その他UAE及びアゼルバイジャンについてもデータに手心が加えられたと断定している。

過去5年間(2016年～2020年)の中国とサウジアラビアの順位



Doing Business Report の2019年版から2020年版までの過去5年間の中国とサウジアラビアの世界ランクの推移を見ると、中国の場合は2016年が90位であり、その後78位(2017年)→78位(2018年)→46位(2019年)→31位(2020年)と変化している。原案では2018年は2017年より順位が下がることになっていたが、上記で述べた如く中国側の強いクレームで前年通りに据え置いている。中国はその後、2019年、20年と大幅にランクを上げ、2020年には日本(29位)とほとんど肩を並べるまでにビジネス環境が改善したとされている。

サウジアラビアの場合は2016年が世界82位であり、その後2017年から19年までは90位台に低迷、2020年には一挙に62位にアップしている。上記に触れた通り、2020年の環境改善度についてサウジアラビアとヨルダンを入れ替えており、そのためのデータの不正操作により同国の順位が大きくアップしている。毎年のランク対象国(地域)数は190前後であり、サウジアラビアは2019年までほぼ世界の中位であったが、2020年には上位三分の一のグループに入っている。

中国もサウジアラビアも問題指摘を受けた年度あるいはそれ以降に大幅にランクアップしていることが特徴である。

不正介入の背景にあるもの

Doing Business は以下の100項目について順位付けを行い、それら100項目の順位の加重平均によって総合順位(Ease of Doing Business)が決められる。

- (一)Starting a Business (起業)
- (二)Dealing with Construction Permits(建設許可)
- (三)Getting Electricity (電力事情)
- (四)Registering Property(登記)
- (五)Getting Credit(信用取得)
- (六)Protecting Investors(投資家保護)
- (七)Paying Taxes(徴税)
- (八)Trading Across Borders(通関)
- (九)Enforcing Contracts(契約強制力)
- (一〇)Resolving Insolvency(清算)

各項目には客観的定量的な統計データが多く使用されているが、定性的な評価項目も少なくない。このような定性的評価について190カ国をどのように位置づけるかは評価者の主観に負うところが大きい。また一次評価に対して上司の二次、三次評価者が介入する余地も少なくない。これは今回の世界銀行のケースに限らず、世界で行われているランク付けで避けて通れないことである。

世界銀行の場合、さらに評価対象国の介入と言う厄介な問題がある。今回の場合中国及びサウジアラビアは世銀の有力な出資者であり、彼らの意向を無視することができない。実際中国の場合は出資問題をちらつかせながらトップのゲオルギワエ最高責任者(現 Мин 専務理事)に見直しを迫り、ゲオルギワエが部下に修正を強要したとされる。世銀トップが経済大国中国に忖度し、世銀内部には上司の命令に逆らえない組織風土があったと言えよう。(注、ゲオルギワエは疑惑を否定する声明を出している。) サウジアラビアのケースについても大同小異と思われる。

さらに付言すれば中国とサウジアラビアは体制は異なるものの、いずれもトップが絶対的な権限を持った強権国家である。また中国は米国に追い付け追い越せとばかり経済強国への道をばく進している。サウジアラビアもムハンマド皇太子がビジョン2030の旗を振り、地域大国を目指している。両国とも世界における自国のランクに極めて敏感である。今回の世界銀行のケースでは、それぞれの外交官または担当経済官僚が、指導者(習近平主席あるいはムハンマド皇太子)の直接の指示に従うか、さもなければ指導者の意向を忖度して世界銀行に無理強いをしたのであろう。

いずれにしても今回と同等のことは世界競争力指数、世界男女格差指数、共に世界経済フォーラムなどあらゆるランク付けで起こりうる問題である。例えばS&P、Moody'sなどが行っているソブリン格付けは国債発行金利を左右するだけに、各国から常にクレームの対象になっている。但し格付け会社にとっては疑惑を招くような格付けは当該企業そのものの存亡にかかわる。このため各社は毅然とした態度で対処しており、それ故にこそソブリン格付けは信頼されていると言うべきであろう。

以上

本件に関するコメント、ご意見をお聞かせください。

荒葉一也

Arehakazu1@gmail.com



¹ World Bank to not release 2021's Doing Business report over alleged irregularities
<https://english.ahram.org.eg/News/Content/3/1/2/423262/Business/Economy/World-Bank-to-not-release-%E2%80%99s-Doing-Business-report.aspx>

2021/9/17 Ahram Online

² 最近3か年のごとくは上記参照。

2018年版：<http://mylibrary.maeda1.jp/0427MenaRank13.pdf>

2019年版：<http://mylibrary.maeda1.jp/0457MenaRank13.pdf>

2020年版：<http://mylibrary.maeda1.jp/0487WorldRank3.pdf>

³ World Bank Statement:

World Bank Group to Discontinue Doing Business Report

<https://www.worldbank.org/en/news/statement/2021/09/16/world-bank-group-to-discontinue-doing-business-report>

WILLMERHALE 調査報告書：

Investigation of Data Irregularities in Doing Business 2018 and Doing Business 2020

<https://thedocs.worldbank.org/en/doc/84a922cc9273b7b120d49ad3b9e9d3f9-0090012021/original/DB-Investigation-Findings-and-Report-to-the-Board-of-Executive-Directors-September-15-2021.pdf>

⁴ IMF chief says she 'did not pressure anyone' while at World Bank

<http://jordantimes.com/news/business/imf-chief-says-she-did-not-pressure-anyone-while-world-bank>

2021/9/25 Jordan Times

⁵ WEFの「世界男女格差指数2021年版」の著者解説レポートの末尾に評価項目指数の片寄りについて指摘したので参照されたい。
<http://mylibrary.maeda1.jp/0529WorldRank5.pdf>